

世界のレトルトフィルム・レトルトパウチ の実態と将来展望 2024-2026

Sample

第1章 市場総論～世界のレトルトフィルム・レトルトパウチ・レトルト製品～

1. 世界のレトルトフィルム市場動向と今後の展望

**新型コロナウイルス流行も、保存性・簡易調理性に優れるレトルト食品はそれほど減少していない
パウチ定量化の基本となる CPP レトルトフィルムの世界市場規模は 2023 年で 77,080 トン規模
2026 年には世界市場規模 83,880 トン規模に成長するか**

2023 年現在、世界のレトルトパウチ需要量は、袋数で 233 億 7,200 万袋に成長していることが推定されており、また今後の堅調な推移を考えれば、3 年後の 2026 年には世界のレトルトパウチ需要量が 254 億 7,100 万袋になることが想定される。

世界的な新型コロナ禍に見舞われたこともあり、2020～2022 年は「リモートワーク」や「外出自粛」などにより、いわゆる「おうち時間」が世界的に増加した。そのため、家庭内での接触機会が増え、更には簡易調理及び保存性にも優れるレトルトパウチ食品の売上げが一時的に増加した。ただこの動きは較的短期的であった。それ以降はややレトルト食品といえども「やや低迷」と言わざるを得ない状況となった。2023 年以降はやや回復が見られる。

世界的に見れば、レトルトパウチの用途は「食品」と「非食品」の構成比がかなり拮抗している。ただ、この場合の非食品用途の多くを占めるのが「ペットフード」であることから、これを食品用途とみなせばほとんどが「食品」用途になるという立場もすることができる。

レトルトパウチの市場規模を把握するためには「ハイ・レトルト殺菌」を行うために必要不可欠とされる「CPP レトルトフィルム」の市場規模を把握することが最も効率的とされる。

CPP レトルトフィルムは、レトルトパウチを構成する各フィルム層の中でも、最内層に採用される「シーラントフィルム」と言われるもので、このフィルムの市場規模を明確にすることでレトルトパウチの需要量がかなり高いレベルで把握できる。

本調査資料では、この CPP レトルトフィルムの市場分析を世界規模で詳細に行うことで、最終的にはレトルトパウチの国・地域別市場規模推移、市場規模予測などを行う。

また、CPP レトルトフィルムを本資料では「レトルトフィルム」と記載する。

レトルトフィルムの市場分析を行う前に、レトルトパウチを受け入れる土壌としての経済性比較を国・地域別に行ったものを掲載する。

1.2 世界のレトルトフィルムの販売量予測

2026年レトルトフィルム世界販売市場、2025年比2.9%増の83,880トンに

2026年の日本市場は世界構成比22.6%。日本の構成比は若干低下

欧州市場は引き続き堅調、2026年39,000トンと世界構成比46.5%を予測

2024年には世界レトルトフィルム市場規模が79,300トンに成長していることが推定されるが、その後も世界的な拡大基調が見込まれる。

タイでは今後ますます「パウチ輸入」が活性化されることが見込まれ、加えて中南米各国なども「パウチ輸入」が増加を続けることが想定されている。

今後はレトルトフィルムの供給とレトルトパウチの生産、レトルトパウチの内需と輸出・入のギャップの拡大など、世界市場全体としてのバランスの検証(プラス・マイナスゼロにすること)が重要。

表 1-6 世界のレトルトフィルム販売量予測

	2024年		2025年		2026年	
	トン	構成比	トン	構成比	トン	構成比
日本						
インド						
韓国						
タイ						
台湾						
中国						
その他アジア						
アジア・計						
北米・計						
中南米・計						
欧州・計						
世界合計						

(S&T 出版推定)

図 1-1 世界レトルトフィルムメーカー供給量トップ10(2026年)予測・トン／年

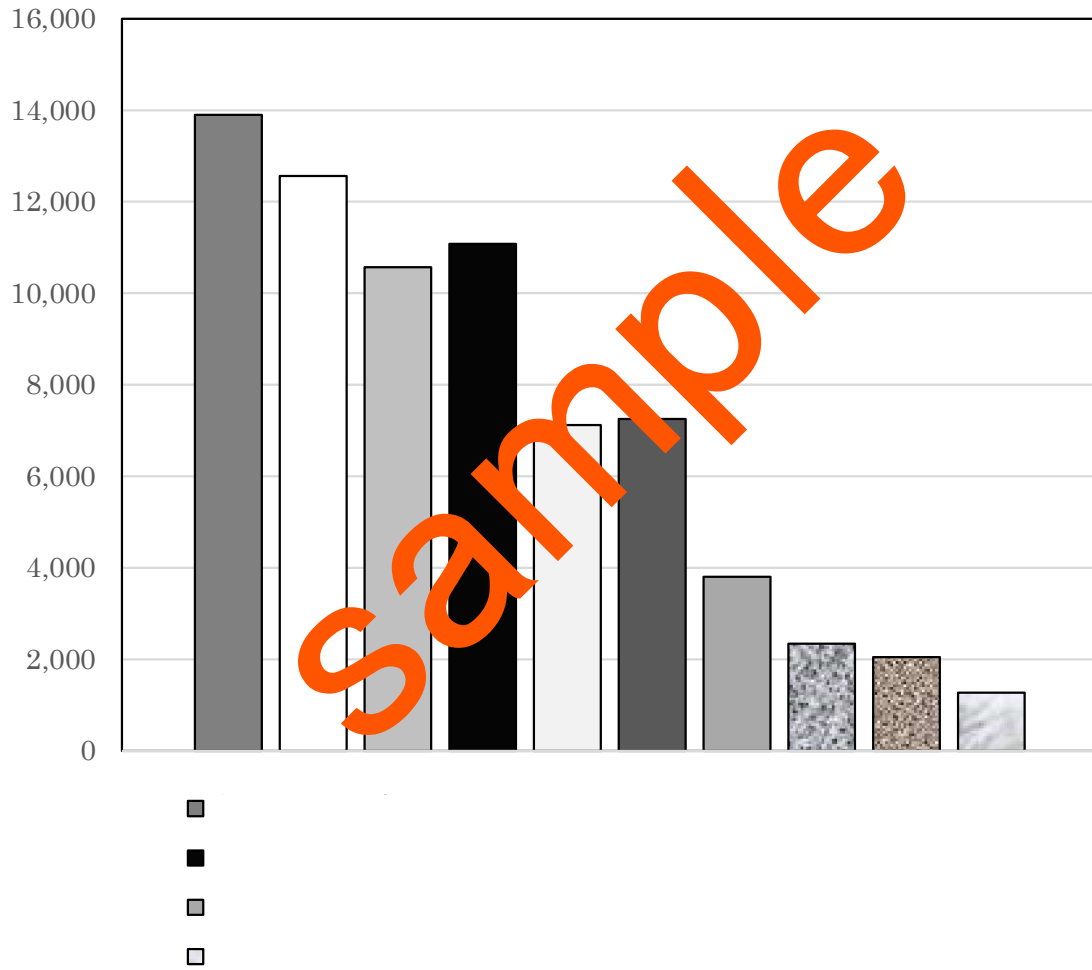


表 1-23 世界のレトルトパウチ需要量における市場規模ギャップの内訳・2021 年

	パウチ需要量		パウチ生産量		パウチ・ギャップ(万袋)	
	万袋	構成比	万袋	構成比	輸出	輸入
アジア		35.8	1,109,800	48.4	-	-
北米		12.8	51,000	2.2	-	-
中南米		3.7	19,000	0.8	-	-
欧州		47.6	1,460,000	48.6	-	-
世界合計		100.0	2,294,500	100.0	-	-

(S&T 出版推定)

表 1-24 世界のレトルトパウチ需要量における市場規模ギャップの内訳・2022 年

	パウチ需要量		パウチ生産量		パウチ・ギャップ(万袋)	
	万袋	構成比	万袋	構成比	輸出	輸入
アジア					-	-
北米					-	-
中南米					-	-
欧州					-	-
世界合計					-	-

(S&T 出版推定)

表 1-25 世界のレトルトパウチ需要量における市場規模ギャップの内訳・2023 年

	パウチ需要量		パウチ生産量		パウチ・ギャップ(万袋)	
	万袋	構成比	万袋	構成比	輸出	輸入
アジア					-	-
北米					-	-
中南米					-	-
欧州					-	-
世界合計					-	-

(S&T 出版推定)

2.3 台湾のレトルトフィルム市場展望

2.3.1 台湾におけるレトルトフィルムの需要量予測

2026年、台湾レトルトフィルム市場規模は1,180トンが見込まれる。
 市場規模推移としては今後も年率3~4%の拡大率が見込まれている。
 パウチの輸出入はとりあえず2026年までは活発化しないことが見込まれる。

台湾市場におけるレトルトフィルム市場規模は、2023年までの3年間で平均2%以上伸長してきた。今後2026年までは年率4%近い伸び率で推移することが見込まれており、その結果、2026年には 規模が見込まれる。

また、レトルトフィルムの供給→パウチ生産→国内需要という傾向は今後も変わらないと見られる。つまり、今後もしはパウチとしての輸出入は活発化しないという見込である。

また、レトルトフィルムメーカーとして日系メーカーと韓国メーカーが今後もシェア争いを続ける可能性が高い。

台湾市場におけるレトルトフィルムの需要予測を以下に示す。

表 2-57 台湾におけるレトルトフィルムの需要量予測

	2024年	2025年	2026年
レトルトフィルム供給量(トン)			
うち、パウチ生産向け(トン)			
うち、パウチ国内需要向け(トン)			
パウチ輸出入・フィルム量換算(トン)			
フィルム国内充足率(%)			

(S&T 出版推定)

このように台湾市場の場合、レトルトフィルムの供給量が今後も年率4%近い伸び率で推移することが見込まれている。その結果、2026年にはレトルトフィルムの台湾内供給量予測が 規模になると推定する。

基本的に台湾市場は「パウチ内需完結型」であり、供給されたレトルトフィルムのうち、ほぼすべて

が台湾内でレトルトパウチ化され、しかも生産されたレトルトパウチを輸出需要に向けるケースや、逆にパウチ輸入されるケースはほとんど見られない。この傾向は今後もしばらくは変わらないと見る。

2.3.2 台湾におけるレトルトフィルム・サプライヤーの販売量とシェア予測

シェアトップは、2026年 12%シェアで130トンを見込む。

、2026年 12%シェアで130トンを見込む。

、2026年 12%シェアで130トンを見込む。

台湾における今後のレトルトフィルムのサプライヤーは、主要なメーカーとして「

」の他に大別されるのはこれまでと同様。

中でも「」のシェアが引き続き高く、2026年 市場全体の 21.3% を獲得、また 1.3%と同規模の推移になっていると推定する。

、販売量を伸ばしていくことが見込まれ、2026年には年間 130トンになっていると予測する。

具体的なメーカーシェア予測は以下の通り。

表 2-58 台湾におけるレトルトフィルム・サプライヤーの販売量予測(トン、%)

	2024年		2025年		2026年	
	販売量	シェア	販売量	シェア	販売量	シェア
-						
-						
-						
-						
合計	1,000	100.0	1,040	100.0	1,080	100.0

(S&T 出版推定)

1.6 インドのレトルトパウチ市場分析

1.6.1 インドにおけるレトルトパウチの需要量推移

レトルトパウチ内需は2023年5億8,900万袋。内製パウチ以外にパウチ輸入がある。

2023年の内訳は、内製パウチ5億5,000万袋、輸入パウチ3,900万袋。

今後もパウチ輸入と内製比率はバランスしていく見込。

インド市場におけるレトルトフィルム市場規模は、2023年までの3年間で全く伸長していない。今後2026年までは堅調な伸び率で推移することが見込まれており、それに伴い、レトルトパウチの袋数もほぼリンクして伸長する。

表 3-11 インドにおけるレトルトパウチの需要量推移

	2021年	2022年	2023年
レトルトフィルム供給量(万袋)
うち、パウチ生産向け(万袋)
うち、パウチ国内需要向け(万袋)
パウチ輸入(万袋)
レトルトパウチ国内需要量(万袋)

(S&T 出版推定)

このようにインド市場の場合、レトルトパウチの国内需要量がここ数年間は.....万袋レベルで推移しており、2024年～2026年まではこれまでよりも高い伸び率で推移していくと見られる。それ以後も堅調な推移が見込まれている。

基本的にインド市場は「生産パウチ→内需」+「輸入パウチ→内需」という構図であり、供給されたレトルトフィルムのうち、ほぼすべてが国内レトルトパウチ生産に向けられ、またそれ以外に輸入パウチが流通している。内需に向けられたレトルトパウチは、内容物(レトルト食品)を充填後、最終製品として海外輸出されるケースが多いが、近年「最終製品の内需」も増加しつつある。

1.6.2 インドにおけるレトルトフィルム・サプライヤーのパウチ換算販売量とシェア

レトルトフィルム・サプライヤーのパウチ換算販売量は、2023年3億5,000万袋。

がトップシェア。同社は2023年、パウチ換算で5,600万袋規模。

2023年7,600万袋規模のフィルムを供給か。

インドにおけるレトルトフィルムのサプライヤーは、下記のようなものである。

フィルムベースでの市場規模においては、Vista Filmがトップシェアを獲得している。これはパウチ換算した場合でも同様に、ほぼ独占している。

具体的なメーカー別シェアは以下の通り。

表 3-12 インドにおけるレトルトフィルム・サプライヤーのパウチ換算販売量推定(万袋、%)

	2021年		2022年		2023年	
	販売量	シェア	販売量	シェア	販売量	シェア
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						

(S&T 出版推定)